

2016 互和讃会

12月1日（木）正午、大阪駅中央新幹線切符売り場の前に16人が集まって今年のクラス会が始まった。当番幹事は大阪組で高井、三崎そして宮脇の三氏にお世話になった。

今年は例年とチョッと趣の変わった計画で、通常のように名所、旧跡を訪ねるのではなく、初日は落語寄席を楽しみ、2日目は天保山にある水族館、海遊館を見学するというコースである。

多くの我々は未経験と思うが、今流行の落語寄席は行ってみれば中々のものである。天神天満繁昌亭では、時間になって入場するまで多くの人が並んで待っている様な大賑わいであり、客も216人と満席であった。午後1時から4時10分頃まで、途中15分の休憩を挟んで8席の落語と津軽三味線、そしてマジックが間に挟まれ十分楽しめた。

さすがに語り家だけあって全員大きな声でハキハキと、そして喋りが実に上手である。客を笑わせて幸せにする商売そのものであった。



その後地下鉄を乗り継いで日本橋で下車、ブラブラ歩いて宿泊する大和屋本店に着く。街の真ん中の和風旅館でそう大きくはないが、ここでも外国人のグループが多く宿泊していた。チョッと不満に思ったのは誰しもが思う夕食前の入浴が、学生団体の貸切とかで入りたい時に大浴場に入れなかったこと、これでは日本旅館の「おもてなし」に水を差していると言わざるを得ない。

夕食から高井夫人も参加し17人となっていた。

宴会はふぐ鍋会席であった。料理はまずまずであったが、ひれ酒が特に好評で確かに美味しかった。

3人が帰宅したため宿泊は14人となった。

恒例のように一つの部屋に集まり、幹事に準備してもらった酒とつまみで二次会。宴会中での近況報告でもそうであったが、お互いの健康のことや趣味など毎年同じ様な話題で語り合い、最後は来年の会を何処でやるかの話になったが、いくつかの案があり結局決めきれなかった。今後のいろいろな集まりの中で決めることになると思う。

そして翌朝奥山君が参加したが、途中数珠君は用事で帰った為14人で地下鉄で大阪港まで行き、天保山にある海遊館を訪れた。



水槽の中で悠々と泳いでいる魚など特にこの中の人気者、じんべい鮫を中心に約2時間足らずで見て回った。昼食を海遊館すぐ前の天保山マーケットプレースの中で摂り、今回の互和讃会は終了した。全員地下鉄に乗り、各自都合のいい駅で降り解散した。

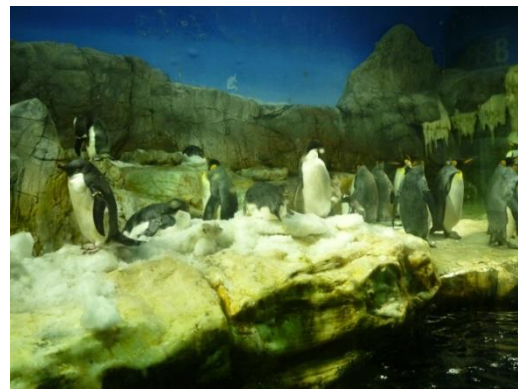
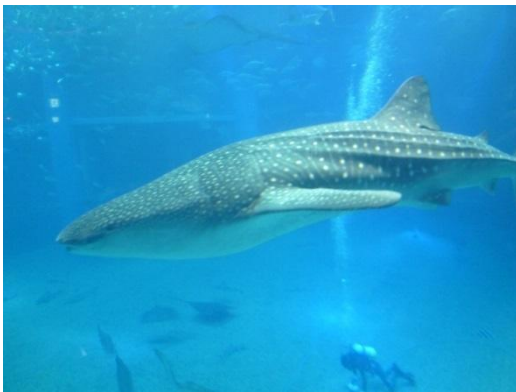
海遊館入り口付近での集合写真

後列左から

山中寛城 奥山正夫 桜井達郎 斎藤邦秀 阪口文雄 三崎 歩
福西興至 市川喜代始 池田晴充

前列左から

高井禎之 宮崎 博 宮脇雄也 岩坪正光 の各氏
尚、前夜に帰宅した 川崎 登氏の他泉、高井両夫人と海遊館欠席の数珠 滋氏、そして筆者は写真に入っていない。



(色染昭37年 山崎 治忠)